

KASELE 2025 Oita

第 53 回九州英語教育学会 大分研究大会 プログラム



【写真提供】大分県公益社団法人ツーリズムおおいた
会 長 中村 典生（長崎大学）
大会実行委員長 大下 晴美（大分大学）

日 時： 2025 年 11 月 29 日（土）9:40-16:40
会 場： 大分大学旦野原キャンパス教育学部棟（大分市大字旦野原 700 番地）
ホームページ <https://www.oita-u.ac.jp/>
後 援： 大分県教育委員会、未定
参加費： 会員：無料、非会員：500 円（資料代として）
日 程：

9:00- 受付 (Reception) 教育学部 1F 玄関
9:40- 9:55 開会行事 (Opening Ceremony) 200 号教室
会長挨拶 中村 典生（長崎大学）
会場校挨拶 佐藤晋治（大分大学教育学部長）
実行委員長挨拶 大下 晴美（大分大学）
諸連絡
10:00-12:10 研究発表 (Presentations)
12:10-13:15 昼食 (Lunch Break)
13:15-14:15 研究発表 (Presentations)
14:30-14:50 総会 (Members' Meeting) 200 号教室
15:00-16:30 シンポジウム (Symposium) 200 号教室
16:30-16:40 閉会行事 (Closing Ceremony) 200 号教室

★ 研究発表 Presentations ★

10:00-10:25 Presentation 1

10:35-11:00 Presentation 2

11:10-11:35 Presentation 3

11:45-12:10 Presentation 4

13:15-13:40 Presentation 5

13:50-14:15 Presentation 6

※使用言語 (Language used in the presentations , L: Language, E: English, J: Japanese)

第一会場 (Presentation Room 1) 200 号教室

発表者	発表タイトル	L
1 Tomek Ziembka (National Institute of Technology, Oita College)	Go global by thinking local —promoting tourism with EFL for college students	E
2 ベルガー 舞子 (立命館アジア太平洋大学)	Preparing High School Students for College through Extensive Reading	E
3 折田 充 (熊本大学名誉教授) 相澤 一美 (東京電機大学) 小林 景 (慶應義塾大学) Richard Lavin (熊本県立大学)	自律型オンライン語彙学習プログラムに対する学習者の有用感	J
4 武上 富美 (熊本県立大学)	グローバルスタディーズを支える言語教育と批判的思考要素の理論と実践	J

第二会場 (Presentation Room 2) 201 号教室

発表者	発表タイトル	L
1 小林 啓子 (大分大学)	AI を活用した英語授業におけるメタ言語・メタ認知能力育成の実践研究	J
2 桑野 健太郎 (九州国際大学付属高等学校)	AI 英会話アプリ「AI パフォーマンス」導入による高校生の認識変容の比較分析:体系化された教育的効果の枠組みに基づく実証研究	J
3 瀬戸 千尋 (サレジオ工業高等専門学校)	Multi-Agent Orchestration による AI 時代の作文授業デザイン—ChatGPT を用いた実践—	J
4 藤田 恵里子 (日本大学商学部)	大学生英語学習者を対象とした ChatGPT の英文ライティング添削への活用	J
5 内田 富男 (明星大学)	スリランカ人英語学習者音声データベース構築初期段階の検討と活用試案	J
6 佐々木 陽太 (都城工業高等専門学校)	英語学習者が享受するウェルビーイング—デジタルゲームを用いた言語学習を通して—	J

第三会場 (Presentation Room 3) 204 号教室

発表者	発表タイトル	L
1 河村 昌宏 (小郡市立のぞみが丘小学校)	TBLT に基づく描写タスクが児童の英語スピーキング不安に与える影響 —小学校 6 年生における過去形導入の実践を通して—	J
2 大下 晴美 (大分大学)	発達段階による語彙処理時の前頭前野の活動差—小学生と大学生の fNIRS 比較—	J
3 大谷 由布子 (大分大学)	英語の「読み書き困難」早期発見・早期介入のための教員用研修プログラムの構築	J
4 中上 健二 (東海大学)	「外国語」授業の導入部分に関する一考察	J
5 安倍 志奈 (宮崎市立加納小学校/宮崎大学院生)	小学校外国語の読み聞かせにおける児童の理解度とリスニング方略の関連	J
6 岩本 将孝 (宮崎大学大学院生)	教育実習生の中学校英語授業におけるティーチャー・トークの特徴	J

第四会場 (Presentation Room 4) 303 号教室

発表者	発表タイトル	L
1 波多野 皓一 (北九州市教育委員会学校教育課)	自分の考えや気持ちなどを即興的に英語で表現できる生徒の育成—言語活動でのアウトプットと適切なフィードバック—	J

2	丸山 和宏（宮崎大学大学院生）	中学校英語のライティングにおける学習者のつまずきの実態：書く力を伸ばす指導の検討	J
3	善平 朝陽（琉球大学大学院生）	公立中学校英語授業における5ラウンドシステム導入の試み：生徒の振り返りから見えてきた成果と課題	J
4	山城 仁（東京学芸大学附属世田谷中学校/東京学芸大学大学院生）	ランゲージングを通した L2 発達プロセスの考察—appropriation における抵抗の視座からの分析—	J
5	飯村 英樹（群馬県立女子大学）	背景音がリスニングに与える影響：日本語、英語、アラビア語の比較	J
6	高波 幸代（群馬大学）	スプリングテスト直後の採点方法が学習者に与える影響	J

第五会場 (Presentation Room 5) 304 号教室

	発表者	発表タイトル	L
1	石橋 俊（佐賀県立佐賀東高等学校）	CLIL と SDGs 活動を通した英語力と社会性の育成—output 体験を最大限に生かす—	J
2	長友 隆志（宮崎県立都城西高等学校） 石原 知英（鹿児島大学）	リテリング活動を軸とした要約指導の開発と効果の検証	J
3	坂口 寛子（福岡県立春日高等学校）	「論理・表現I」ではどのようなディベート指導が想定されているのか—検定教科書分析を通して—	J
4	槌本 萌（長崎大学大学院生） 廣江 颯（長崎大学）	高校英語における個別最適化の試み—アンケート調査からの考察—	J
5	伊佐 良真（琉球大学大学院生）	一貫性と空間移動表現が物語文読解に与える影響	J
6	勝久 愛（鹿児島大学）	「論理・表現」教科書のライティングモデル文の語彙的結束性の比較	J

第六会場 (Presentation Room 6) 300 号教室

	発表者	発表タイトル	L
1	諸江 善文（International Education and Lifelong Learning Institute, University of St Andrews）	私の教職人生—これまで、これから—	J
2	浮田 智也（宇部工業高等専門学校）	心理的安全性の増大を意図した授業活動は心理的安全性と外国語学習不安にどのような影響を与えるか	J
3	神野 皓大（明治大学大学院生） 樫村 祐志（明治大学大学院）	日本の中学校・高校英語教師におけるストレスとウェルビーイングの関係性	J
4	柴田 のどか（津久見市立保戸島中学校） 石原 知英（鹿児島大学）	ある英語教師のキャリアを通した信念の変化とその要因の検討	J
5	深澤 真（琉球大学）	英語スピーキングの学習を促進する自己評価と相互評価の指標の開発	J
6	林 麗美（九州産業大学）	音読が英語学習へのエンゲージメントに与える影響	J

★総会★（14:30-14:50）200 号教室

★シンポジウム★（15:00-16:30）200 号教室

テーマ：「AIを活用したスピーキング指導」

パネリスト

二宮 健吾（大分県教育庁義務教育課）

高倉 圭一（大分県立日田高等学校）

奥野 沙耶（大分県立日田高等学校）

Sean Chidlow（大分大学）

コーディネーター兼発表者

大下 晴美（大分大学）

○概要

AI 技術の進展により、英語スピーキング指導にも革新が起きつつあります。本シンポジウムでは、「AIを活用したスピーキング指導」をテーマに、中学校・高校・大学それぞれの教育現場における実践例と評価を紹介します。中学校からは大分県内で新たに導入されたアプリの活用とその効果、高校からは ChatGPT を用いた英会話授業の工夫と成果、大学からは自作スピーキング評価アプリの仕組みと精度検証について報告します。各校種の現場での工夫や課題を共有し、AI 時

代におけるスピーキング指導の可能性を探る機会にしたいと思います。

【パネリスト1: 二宮 健吾(大分県教育庁義務教育課)】

今年度、大分県では、AI アプリを活用した英語授業支援事業を実施しています。AI アプリ導入の主な目的は、生徒における英語の知識及び技能等の確実な定着を図ることや生徒が英語を使う機会を拡充するとともに、英語学習へのモチベーション向上を図ることです。

本事業の対象校は中学校2校、高等学校2校(普通科と専門科)となっています。授業や家庭学習において、AI アプリをどのように活用することが生徒のスピーキング力等の育成において効果的なのか等について、生徒アンケートや教師アンケートの結果の推移とともに報告します。

【パネリスト2: 高倉 圭一(大分県立日田高等学校)、奥野 沙耶(大分県立日田高等学校)】

表現活動に生成 AI を導入し始めて半年になります。「話すこと(発表・やりとり)」における「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力を高めることを目指し、Chat GPT と MetaMoJi ClassRoom を組み合わせて活用しています。3年生を対象に、主に以下の3つの取り組みを進めてきました。① Picture Description: 提示された画像を英語で説明し、生成 AI に再現させる ② Chat GPT との会話(壁打ち): 学校、買い物等の場面を想定したやりとりをする、あるテーマについて意見を交わす ③ 振り返り: 生成 AI とのやり取りを文字化し、自己評価・相互評価をする これらの活動を通して生徒の資質・能力が高まったかどうかを検証し、シンポジウムで成果と課題を報告できればと考えます。

【パネリスト3: Sean Chidlow (大分大学)、大下 晴美 (大分大学)】

AI を活用した英語医療面接自動採点システムの開発を目指し、自作スピーキング評価アプリを作成しました。アプリは音声認識と評価アルゴリズムを組み合わせ、意味的適切性・正確性・流暢さ・発音の各側面を分析するよう設計しました。精度検証では、日本人およびネイティブの英語教員による評価と自動評価を比較した結果、自動評価は教員評価に比べやや高めに偏る傾向がありました。本発表では自作スピーキング評価アプリの仕組みとその精度検証の詳細について報告します。

★閉会行事★ (16:30-16:40) 200 号教室

★情報交換会★ (18:00-20:00) *大分駅周辺、5,000 円(税込)

参加希望者に場所等の詳細を直接電子メールでお知らせします。

交通アクセス < <https://www.oita-u.ac.jp/category/access.html> >

■大分まで【空路】 羽田空港—大分空港(1時間 30 分)、大分空港—大分市内:連絡バス(60 分)

■大分まで【鉄道】 小倉駅—大分駅(1時間 30 分)

■大学まで【鉄道】 大分駅—JR 豊 肥本線(15 分)—大分大学前駅—徒歩(5 分)—大分大学

■大学まで【バス】 (大分バス)「大分駅前」もしくは「中央通り(トキハ前)のりば」「大南団地・高江ニュータウン」「大分大学」行き—(40 分)—「大分大学正門」もしくは「大分大学(構内)」下車

■自家用車
キャンパス内の駐車場をご利用いただけますが、大学入口の門衛所にて、ご自身で手続きが必要です。(右図参照)



大会実行委員

大会実行委員長 大下 晴美 (大分大学)
大会実行副委員長 大谷 由布子 (大分大学)
大会実行副委員長 朝美 淑子 (大分大学)

九州英語教育学会事務局

興津 紀子 (Noriko OKITSU, KASELE Office Coordinator)

〒889-2192 宮崎県宮崎市学園木花台西 1 丁目 1 番地 宮崎大学教育学部 英語教育講座 興津紀子研究室

TEL 0985-58-7443

Email office.kasele@gmail.com